

「左利きの社会学」
ブルース・L・バートン
2002.3.26 放送

今回お話するのは、視聴者の約 9 割の人にとっては馴染みのない、ひょっとしたら考えたこともない問題についてです。しかし残り 1 割の人にとっては、日常、常に意識せざるをえない、非常に重要な意味をもったことと言えます。私もその少数派の一人ですが、私たちの状況を多数派の皆さまに考えていただけるよう、今回は、左利きについてお話したいと思います。

左利きに対しては昔よりいろいろな偏見や差別がありました。たとえば、キリスト教の聖書には、右を善に、左を悪に例える説話がいくつかあります。英語で右を指す「right」という単語はそのまま「正しい」という意味もあり、左の「left」は「あやしい」とか「変わった」といったニュアンスがあります。

また日本を含む多くの国では、以前、家庭や学校教育のなかで、左利きを右利きに「直す」といった矯正が一般的に行われていました。視聴者の皆さまのなかに、こうした矯正は、差別ではなく、左利きが本人にとっても不便だから、直してあげたほうが良いとお考えの人もいるかもしれません。後で話すように、左利きは確かに不便です。しかし、利き手は、本人の意志によって決まるものではなく、脳の構造と密接な関係にあるので、矯正は、ある意味でその人のアイデンティティを否定した行為であり、人権侵害といっても過言ではありません。また、矯正が難しいうえ、本人に心理的なダメージを与えることが少なくないので、その意味においてもあまり勧めるべきではなく、一部の国を除いては、最近ではほとんど行われなくなってきています。

さきほど「脳の構造」という言葉を使いましたが、そもそも人はなぜ左利きになるのでしょうか。ご存知のように、人間の脳は、右と左に別れており、右半分が左半身、左半分が右半身を司ります。したがって右利きの人は、左脳が強く、左利きの人は右脳が強いと考えて間違いないでしょう。

どうしてこんな違いがあるかというと、まず遺伝的な要因との関連が考えられます。たとえば、私の場合、父も左利きですし、妹も左利きです。

けれども、ただ単に左利きの遺伝子が存在するというほど単純な問題ではなさそうです。遺伝だけなら、たとえば一卵性双生児の場合、二人とも利き手は同じになるはずですが、必ずしもそうではなく、一人が右利き、もう一人が左利きといった例がたくさん報告されています。

実は、専門家によると、左利きのなかに、遺伝的には右利きになるはずにもかかわらず、妊娠中や出産時のトラブルが影響して、左利きになってしまう人が少なからずいるといわれています。

こうしたこともあって、左利きはどうも右利きより少し弱い存在のようです。この問題

を詳しく調べたカナダの心理学者、スタンレー・コレン教授によると、左利きが平均的に、右利きより体の発達も遅いですし、さまざまな病気にかかる確立も高いそうです。

しかし、たとえ健康に問題がなくても、世の中が右利きの人のためにできているので、左利きにとって不便なことがたくさんあります。たとえば、普通のハサミは右利き用ですから、我々左利きにはうまく使えません。缶切りもコルク抜きにも不便を感じます。お茶のきゅうすも取っ手と口の位置の関係で左手で使えないものが多くあります。ひしゃくもまた同じです。電気製品の多くも、パワースイッチをはじめ操作ボタンが右側に集中することが多いので困ります。ネジも皆右回しでうまく回せません。カメラも、釣り竿も、その他の多くのスポーツ用品や楽器も、右利き用ばかりです。世の中に左利きの人が不器用だという評判があるようですが、不器用ではなく、使えないものを常に使わざるを得ないのでそう見えるだけです。

対人関係で困ることもあります。たとえば友だちとレストランで食事するとき、一番左の席に座らないと隣の人と手がぶつかり合って食べにくいわけです。こうしたことを常に意識せざるを得ないのも、またストレスの原因になります。

もちろん左利きは損ばかりで、いいことが全くないかというところ、そうではありません。ご存知のように左利きは野球やテニス、卓球といったスポーツで得することがありますし、統計的に裏付けることが難しいですが、芸術性や想像力に富んでいるという評判もあるようです。

けれども、スポーツなどで得するからといって人生で得するかというと、決してそうではありません。病気になりやすいだけではなく、世の中が不便だから事故に遭う確立も高いわけです。驚くことに、左利きの人が右利きに比べて事故死する確立は何と 6 倍も高いそうです。

こうしたこともあって左利きが右利きより若死にする傾向がみられるようです。先程申し上げたコレン教授のデータによると、左利きの平均寿命は、右利きより 10 年も短いそうです。短い理由がまだ完全に解明されていませんし、10 年という数字に関して異論もあるようですが、いずれにしても左利きの人にとってはかなりショッキングな話で一回聞いたらなかなか忘れられません。(もし視聴者のなかにこれで始めて知ったという左利きの方がいれば、悪しからずご了承願います。)

では、どうしたらよいのでしょうか。左利きに伴う健康問題などについては、我々一般人はもちろんだうしようもありません。しかし、人間工学の専門家や日常用品のメーカーに、左利きが使いやすく、そしてもっと安全に生活できるよう、工夫していただくことは大いに可能なはずで、左利きは 10 人に 1 人で少ないようですが、その絶対数はこの日本だけでも一千万人を越えているはずで、どう見てもかなり大きなマーケットといえるのではないのでしょうか。左利き専用グッズも多少はありますが、量的にも質的にもまだまだ十分とはいえません。

こうした具体的な措置とは別に、多数派の右利きの皆さまに、左利きの存在や立場をも

っと考えていただくことも重要です。実は、左利きの話に限らず、日本社会の中で、少数派の人たちが、多数派の生き方や考え方に押しつぶされることがあまりにも多いのではないのでしょうか。障害者、在日外国人、アイヌ、同和地区の出身者などが抱えている問題は、もっと深刻ですが、構造的には左利きの状況とよく似ています。

これらの問題のすべてについて言えることは、多数派の人たちの理解が及ばないということだと思います。こうした状況は簡単には変わると思えませんが、解決の第一歩として、視聴者の皆さまに、周りで今度左手を使っている人を見かけたとき、今日の話思い出して、自分と違う少数派の人たちに少し配慮するよう心がけていただければと思います。

それでは。